へ13
2378
241

遠3
2378
241.1

墨春亭梅麿作
五雲亭貞秀画

妹背結千笹玉章

上冊

丁酉孟春發鬻

芝神明前三嶋町
和泉屋市兵衛版

近松翁の艶曲の。曽根崎村元禄十六癸未年出来及重井筒宝永元甲申年出来浅二本假寝
乃化粧坂むめや尾花の春と秋。その仲町の井筒屋に阿房の脳を汲かゝ。
男女の水性。たゞゐの夫と不知火の。佃漁唄小稲世川船いろ〳〵欲迎ひ
嶋土堤の開くひら野屋の娘ゞ恋の初櫻。花の紋さく徳兵衛ゞ荷の主と
親の恩。ぢちらも重石濵の神の利生。注連縄の。ゑゝと返〳〵長物語
浅ぢろぢ撮ゞ夜の殿。奇々怪談の白狐ゞ義心の思ひ。敵とうどんげの。
花咲屋ゞ三度笠。きすゝ恵の母の名の。尾上の松や曽根崎夫婦の時の相
生姻々の声も冊数四海波。ときまる千亜の玉椿。八千代もかゝる妹
脊結と。此表題。浅名歌侍アル

天保六年乙未冬稿成
八年丁酉春發市

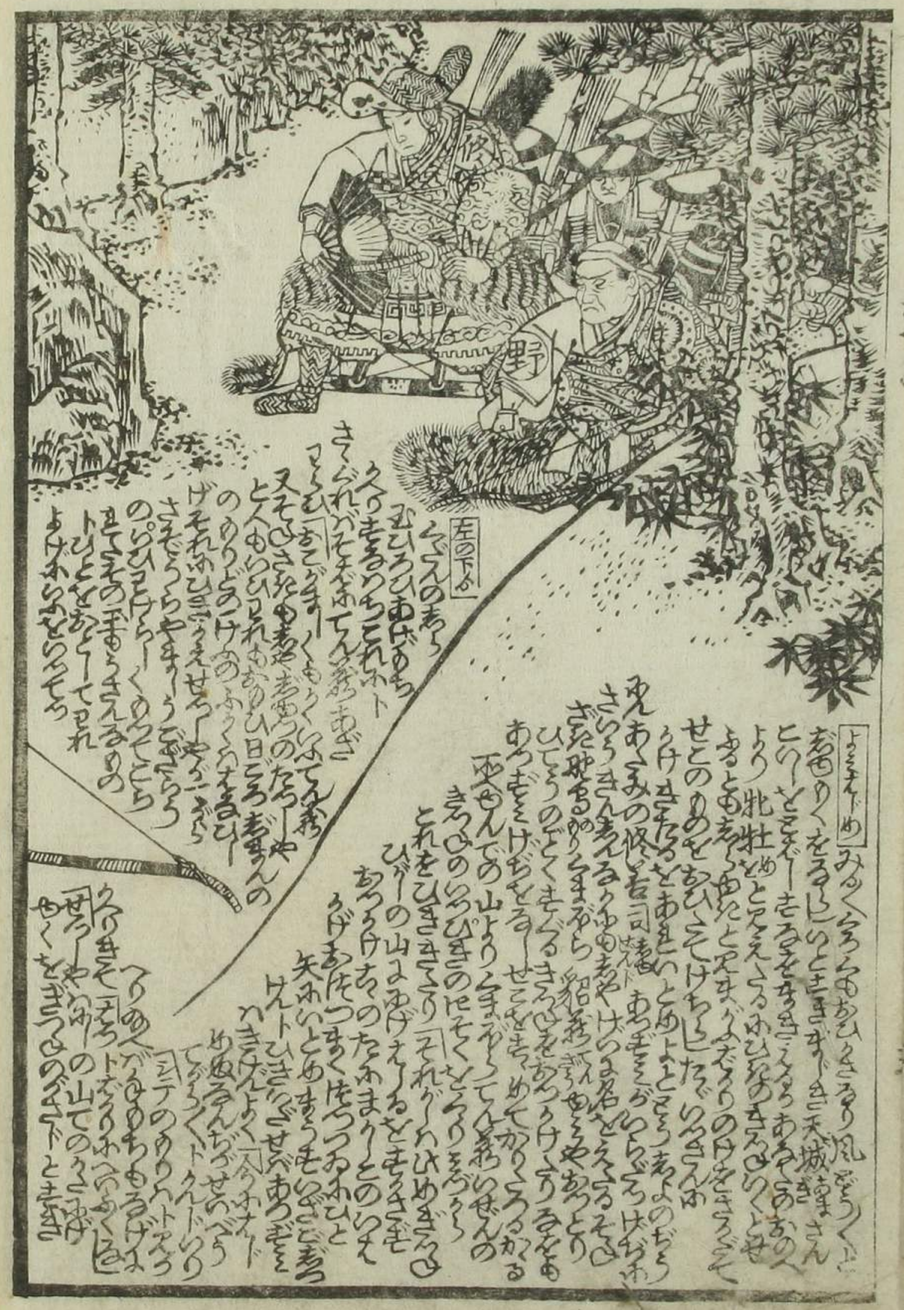
墨春亭梅麻呂誌

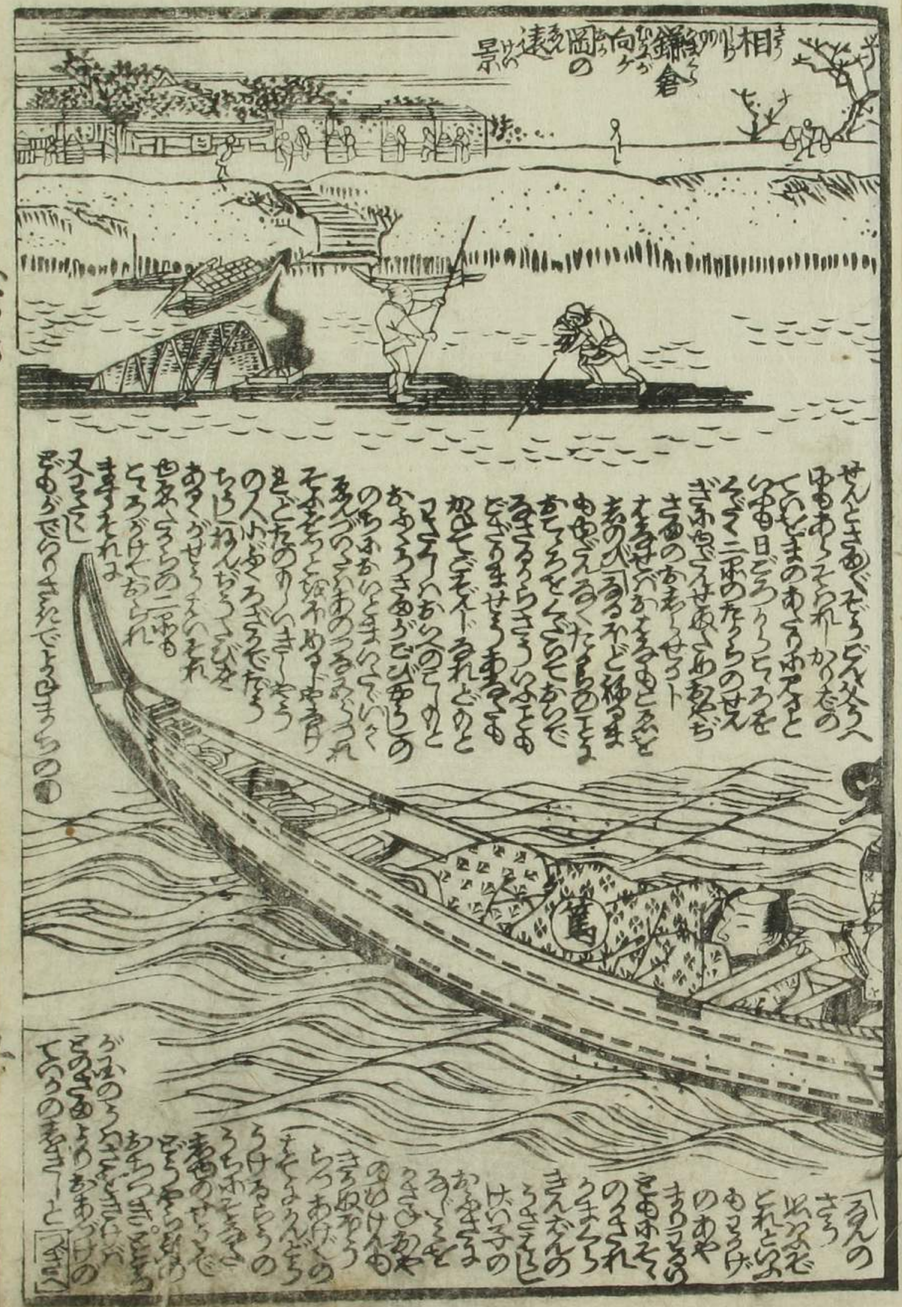
おそめ
霊光
藝子
おきく
平野屋
手代
雑八

そんべえ
青柿
渋介
尼住
愚平太

お發の母
於野江
花咲屋
綱五郎

五郎次
抓子
乳母の乳
キ角
綱五郎
女房
阿花
悪棍
枝七




相模の鎌倉向ヶ岡の遠景

鶴
こたつまのうちゆかりのもの
ぐらうまるる

花

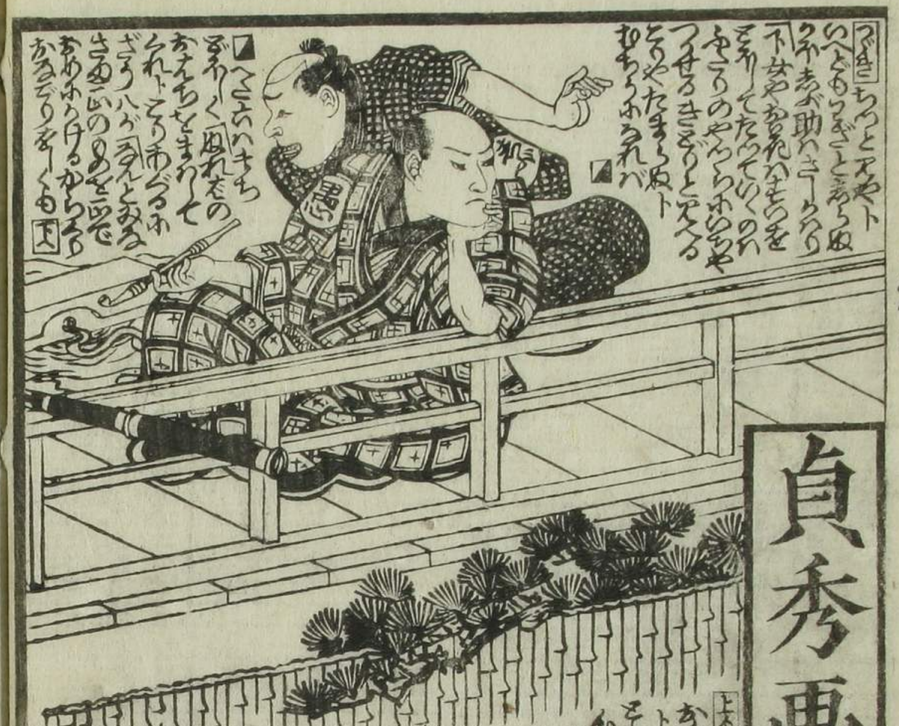
愚
房
へと

房
雀

つゝき
上ノ

下ノ

つぎき
雑
愚
房
ふる
川むら
ま
で
ふる



貞秀画 梅麿作

新商賣往来 大本全一冊

商賣往来の古人実ホ回れて字を作るの洞法ありて尋ねかくのごとき年一故のるホの要用の文字を集て彩高美麗なる往来と名づく見まねである高美往来と合せ用ある時の便利あるべし迷子

増補大全商賣往来 大本全二冊

繪本妙々たる夢 柳川重信画 彩色入全二冊

貞操烈女の婦人を多く撰て分かつホ写し出て その小伝を附し画のつけをとられ昔の人のみさを たゞしく忠義をろろぐ全き教訓とるなり

繪本高麗嶽 鍬形紹真筆 彩色入全三冊

花鳥寫真圖會 右同筆 彩色入全三冊

繪本時計艸 各再版

繪本錦衣鳥

繪本荒獅子山

疱瘡輕口咄 前編 後編

合子室山 十返舎九作

墨春亭梅麻呂作

五雲亭貞秀画

甘泉堂梓

2378
241

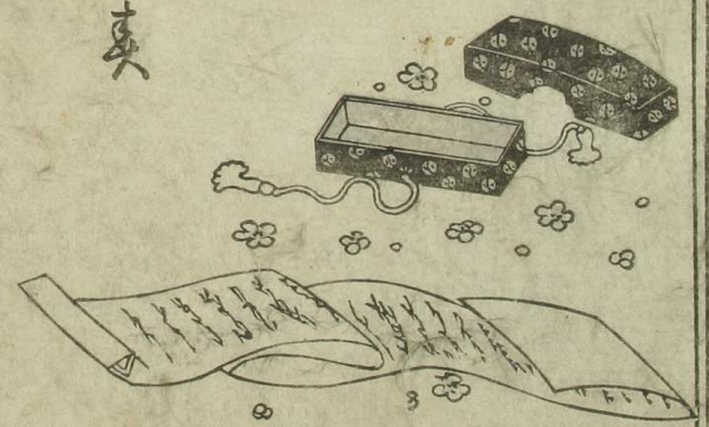
下

遠
2378
2412 止

婦人
むすめ花

下冊

梅廣作　貞秀画

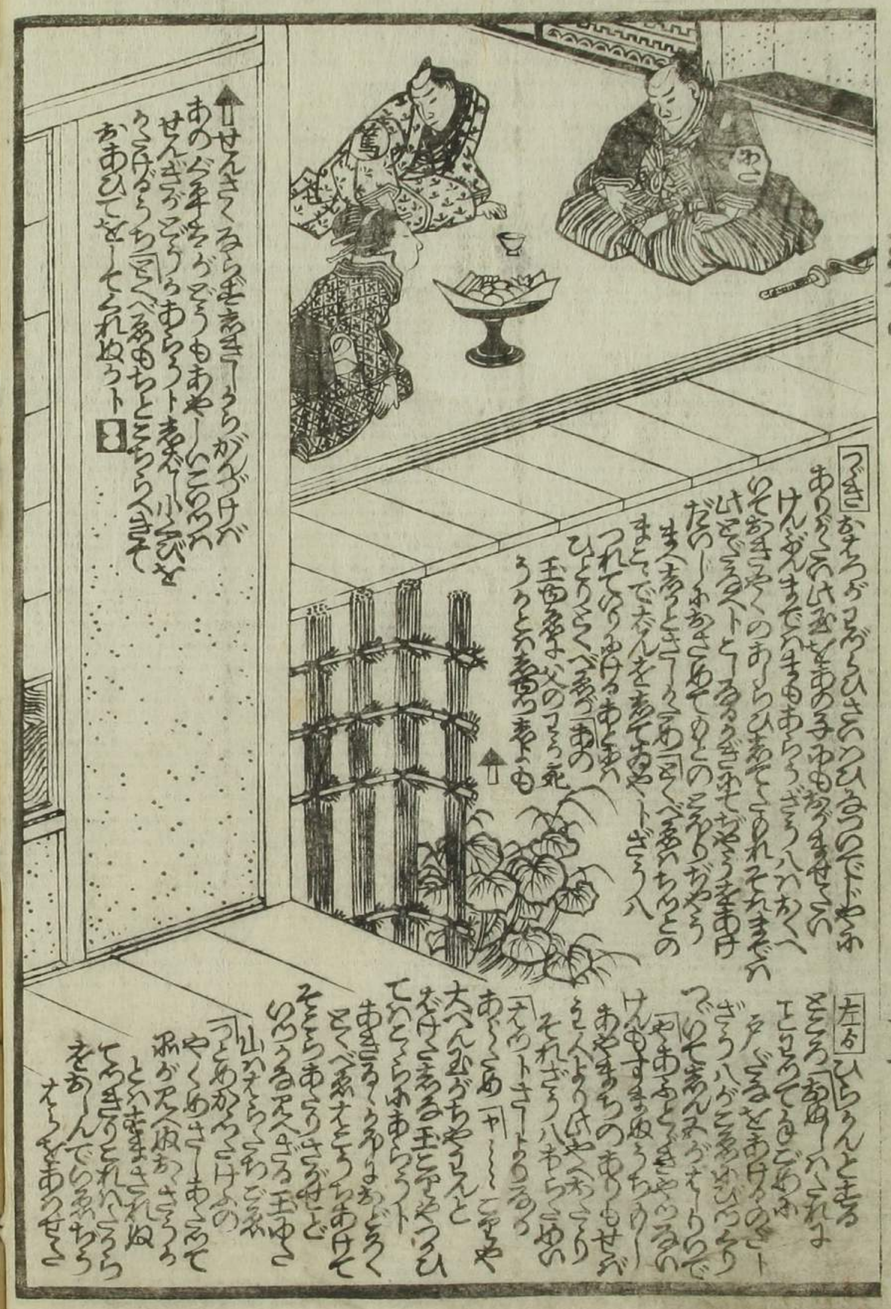


甘露堂上梓

雑
愚
房

萬
發

虎



つぎ　あそうどうこうひさいつひいろうのでどやふ
ありがこのひいろまあまみわもあがませこの
けんがんまでいまるもあらうざうハいかくへ
いそあまきそくのあらひあそこそれそれまでい
けどでうくトとうるるきれそちやうをあけ
だいしふあきこあそのとのこそりちやう
まくあうときこくこあ「ごくべあいちりとの
まとでたんをあそちあ」トざうハ
つれてのりふけるあとあい
ひとりらくべあ「あの
王面あよ父のこうあ死
うとあ面あうあ

↑せんさくるらぶきこうらがづけが
あのゞ手ちがどうもあやしいこのわ
せんぎがこうらあらうト考へ小こびを
うこけるうちごくべあもちとこうらくきそ
ちあひこをーとられぬうト

左右　ひらうんとまる
そころ「あ」ハこれよ
とこりてるごあか
ゞどうをあけくのこト
ざうハがこあめがこりつう
つでいそあんみがちりつで
「そあふとくきやうるの
けんもすまぬうちりー
あやまちのありもせば
えくよりけやくあこり
それざうハやらくめの
「えのトさーよりるる
あくくあ「ヤ」ーこやや
大へんむがちやうんと
ぶけこまる王こややつひ
ていこくらふあらうト
あきころくうりよあどく
こくべあすこちあけそ
そこちあらうざうぜど
いりうるえこさる王ゆさ
「山いそらくちごえ
「とあかうさけふの
やくあさーあこて
ゾがえへぬあさうろ
といきまきこれぬ
てうきりこれいこうら
をあーんでらあちう
たこうをあうせこ

さうハがらぽの
きけん
ゐやき
あまうも
きくこうり
あのそごま
のざえーど
ちんゆん
ちりてうハ
あまストうの
やう「だい
ーるふでる
そごまのうちまあまりが
あるうらきごうひや
ゆこ山さあもあうひるきる
あれえよそれるさあく
きやれトふをとりひこのふ
つをそいるあとまろてごう
ハがかいてよういのあひるきそで
ふたやくあけてごるのをこ
あこやこあけてこうごす名ま
あえいありあはくちやうん
ふなやくふくさよあつくこ
のとあこりふまるまひあき
そごるいつざこどやうキ人セ

▲あろー
けゆまぐらか
ぐんのあひるきを
さあきこるぬぐひふ
まをつみ　やこころふまろ
とあさあるふうらぬうで
あくへあくまぐらくあてらぐう
さくえ「ちんえさあ
ろうとまるゆどりそ
今きけいあの玉いうぐ
のうあるるけんゞす
ゆこ山さあゞまくんの
のううりれ木よいまあんいるんエうト

たちうる
こごまの
ぢけうあ
そまふあちる
あひうぎひつこ
てうりけのこうひ
あのひきうて玉をこちこ
あこうり「ちよトせうこ
こうあ「まふうまやく
あけてたうらのそこ

「こりやおうふるうがと
てうりけのこうひ
あのひきうて玉をこちこ
あこうり「ちよトせうこ
こうあ「まふうまやく
あけてたうらのそこ

▲ら
ちう
こごまの
ぢけうあ
そまふあちる
あひうぎひつこ
てうりけのこうひ
あのひきうて玉をこちこ
あこうり「ちよトせうこ
こうあ「まふうまやく
あけてたうらのそこ

あんうけさてうこん
ぐうこーらこう
ざうハうれ
まぐうろふ
ろうこひと
アものこう
ぎひうこう
かけ肉ハのこ
ちぜんへ
ひくト
ぎーや
ぐうろく
まんぐ
ぎう
ハ分
「ま」
こう
べま

ゆさ
雑
鶯

発

篤
枝

花

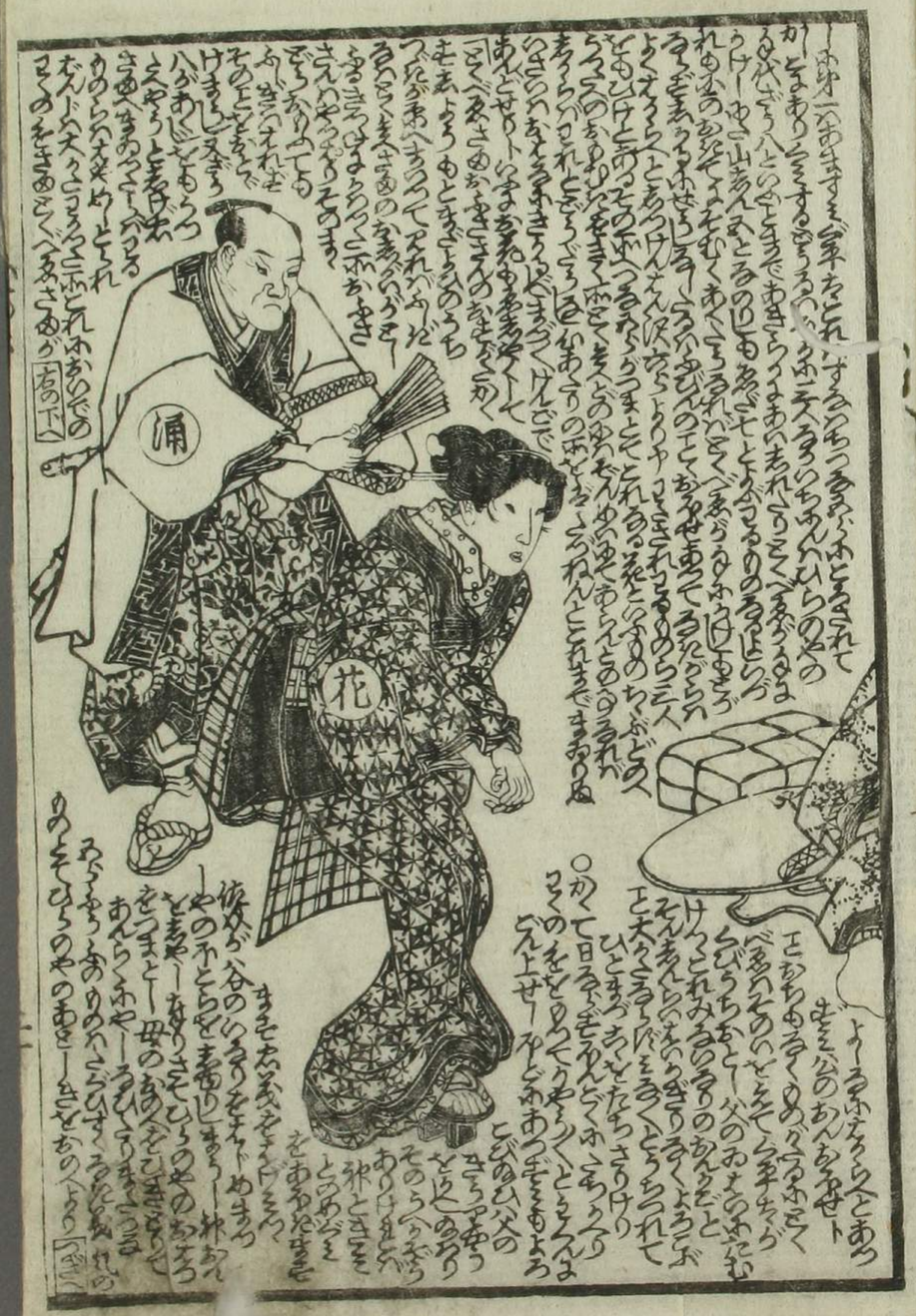
御休所
雑
こへ
あのまゝ
あのぞで
さるをふろら
ごまそうそく

それは
あまへか
の
発

愚
雑

細

萬
網


涌
花

天保八年丁酉春甘泉堂新稗史目録

新編金瓶梅 第五集冊 曲亭馬琴作 第六集冊 香蝶樓國貞画

金毘羅船利生纜 第九編冊 曲亭馬琴作 一勇齋國芳画

裏表忠臣蔵 第三編冊 夜雨庵白猿作 香蝶樓國貞画

放駒文三 昔摸様娘評判記 第二編六冊 山東庵京山作 香蝶樓國貞画

風俗伊勢物語 第四編四冊 第五編四冊 東里山人作 五雲亭貞秀画

妹背結千筥玉章 墨春亭梅麿作 全四冊 五雲亭貞秀画

三國志画傳 第十二編 一勇斎国芳画

黒油美女香 百匁 四匁入 京橋南鍋町二丁目西ノ方 坂本氏製

錦繪問屋 地本問屋 江戸芝神明前三嶋町中程 和泉屋市兵衛版